

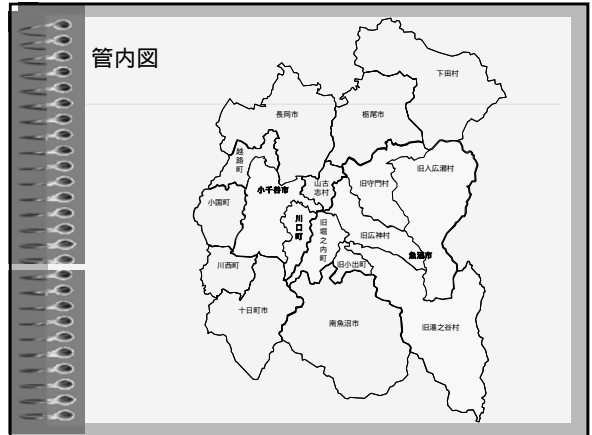
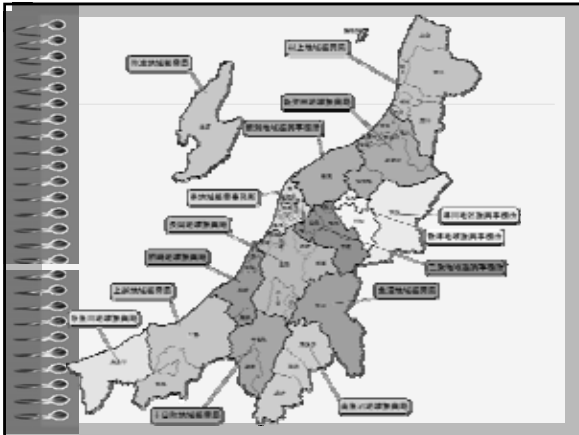
震災における保健所の取り組み (中越大震災の経験から)

2005.9.13

新潟県魚沼地域振興局健康福祉部長
佐藤正司

当部の組織:地域振興局体制

- H16～広域市町村圏単位に地域振興局
 - 県内に10局、3健康福祉(環境)事務所
 - 魚沼地域振興局(旧小出地域振興局)
 - 企画振興部
 - 健康福祉部(保健所、福祉事務所)
 - 農業振興部
 - 地域整備部
- (注) 管轄区域の違い



管内のプロフィール

	面積 (km ²)	人口 (千)	人口 密度	高齢 化率	病床 数	医師 数	歯医 師数
小千谷市	155	40.9	264	25.2	15.8	161	61
魚沼市	947	44.4	47	26.6	13.2	126	47
川口町	50	5.6	112	27.1	-	54	36
計	1152	90.9		26.0	13.6	138	53
県	12582	2455	195	23.0	13.1	166	79





被害の概要 8月4日最終

	人的被害		家屋被害	
	死者	重傷者	全壊	大規模半壊
小千谷市	13	120	632	367
川口町	6	38	606	146
魚沼市	5	22	75	57
計	24	180	1313	570
全県計	48	634	3173	2144

避難状況 10月28日時点

	避難所数	避難者数	車内等の避難者数
小千谷市	134	28,807	6,444 (11/1)
川口町	69	5,692	不明
堀之内町	4	1,100	不明
管内計	248	38,711	不明

10月23日の小出保健所

- 17:56 地震発生
- 18:10～22:10 5人登庁
川口以北の職員は交通路寸断登庁不能
- 水道のみ使用可、電気、ガス不可
- 電話は1台着信のみ可
- 庁舎被害小、ひび割れ程度、書類散乱
- 情報収集(職員の安否、市町村や病院の被害情報、難病患者の安否確認等)

新潟から小出まで長い道のり

- 17:56 新潟市自宅
- 19時過ぎ 出発
- 20時頃 三条から電話
- 24時前 小千谷到着
- 先へ進めず、車中泊
- 翌朝、大回りして
13時過ぎに小出着
- Long & Winding Road



10月24日午前の小出保健所

- 朝の登庁者 12人
- 所内の散乱した書類等の片付け
- 職員の安否確認(3人連絡取れず)
- ライフラインの被災状況調査
- 病院、福祉施設の被災状況調査(小千谷市や川口町は電話が通じず、不明多し)
- 避難所、救護所の設置状況調査(小千谷総合体育館に約1000人など)
- 県看護協会から、支援の用意ありと連絡あり
- 各市町村に保健師、医師、看護師の派遣要請の有無問い合わせ

10月24日午後の小出保健所

- 13時、私、18時、保健所長、登庁
- 災害業務以外はすべて後回し方針
- 地域福祉課長、特養うかじ園現地調査(入所者を同一法人の他施設へ)
- 福祉施設の被災状況調査(余震の都度)
- 小千谷市へ保健師を含め19人派遣決定
- 堀之内町の医師派遣要請、医師会と協議
- 川口町医師の薬品搬送要請あり
- 18時、局議

10月25日の小出保健所

- 県立小出病院から薬品調達、川口町へ搬送
- 堀之内町へ地元医師会から医師2人、夜は東京医療センターの災害支援チーム
- 小千谷市、川口町からも医師派遣要請
- 川口町から薬品等の救援要請
- 小千谷市と堀之内町へ保健師等の県職員派遣、24時間体制
- 小千谷市へ看護協会の看護師派遣
- 川口町への交通は途絶状態
- 20時頃、課長会議(11月末まで継続)

10月26日の小出保健所

- 高速道路、低速で緊急車両のみ通行可となる(川口町の孤立解消、支援の本格化)
- 部と医師会用に緊急車両通行証依頼
- 川口町へも県や看護協会から職員派遣
- 小千谷市へ神戸の震災チーム等派遣
- こころのケアチームに当部から調整役
- 東京医療センターチーム等を川口町へ
- 川口町避難所からポータブルトイレ依頼
- 応援保健師の避難所への先導(11月5日まで)

27日以降(1)

- 27日 保健師3人当部兼務発令。保健師や看護師の応援者急増、管理業務増。
- 27日～ 管外の移送先高齢者施設紹介
- 1日 小千谷市への派遣職員を引き上げ
- 1日 合併により地域福祉課削減(5人) 六日町健康福祉部へ2人応援依頼
- 1日～ 小千谷市20～45人、川口町45～60人、堀之内町10～20人の保健師等を派遣(調整・支援要請書発行)

27日以降(2)

- 3市町に当部保健師1人張り付け、ホットライン確保(小千谷28日、他2日)
- 感染症や食中毒予防のチラシ配布
- 炊き出し施設の監視指導(11月2日まで)
- 風邪やエコノミー症候群予防のチラシ配布
- 家庭薬、粉ミルクなど義援品搬送
- 郡市医師会との連絡調整
- 慢性疾患患者の薬配達
- 犬や猫の一時預かり、飼育相談

一ヶ月を過ぎて

[目的意識と計画的業務執行]

- 11月22日 魚沼市と意見交換会 部の今後の取り組みとして
- (1)健康調査と要支援者対策
- (2)生活弱者対策(生保等)
- (3)施設の復旧支援
- (4)食品営業及び理美容業等の復旧支援
- (5)動物の一時預かり、仮設での飼育支援

トピックス1 (配給弁当による健康被害)

- 11月5日、小千谷市が配給した弁当による下痢、腹痛等の発症者あり
- 7地区のうち2地区は調査拒否
- 5地区366人中、132人に症状
- 便等の検査の結果、食中毒と断定できず
- 能力以上の受注、冷蔵設備の無い車両、期限表示無し、検食用弁当の保管無し
- 早すぎる納入時間設定、配給記録無し
- 遠すぎる製造所選定
- 改善指導

トピックス2 (ボランティア医師によるインフルエンザワクチン接種)

- 10月31日、大阪府の医師が小千谷市の(自分の親戚のいる)一部地域でワクチンを50人に無料で接種
- 郡市医師会、保健所長と3者協議 問診票を医師会に渡し、接種は中止
- 11月4日、旧堀之内町、避難所において町立病院を活用してワクチン無料接種を試みる 合併直後のため、公平性の観点から中止
- 12日付け厚労省通知:避難所の避難者に集団接種するときは、ワクチンの購入費、医師等の報償費等は、災害救助法の支弁対象とする

トピックス3 (避難所でノロウイルス検出)

- 11月3日以降、小千谷総合体育館で嘔吐、下痢症状を呈する患者が多発
- 9日、日赤医療班から聞き取り、受診者の便、吐物採取
- 11日、ノロウイルス検出
- 地震直後の避難所開設以来、衛生環境には十分配慮してきた
- 衛生管理指導の徹底により、収束

トピックス4 (ボランティアのアスペルギルス肺炎による死亡)

- 11月10日、川口町でキノコ工場の後片づけをしたボランティアが、過敏性肺炎の疑いで入院の連絡あり
- 12日、現地調査、聞き取りを行うとともに、検体採取、併せて、キノコ工場へのボランティア派遣について中止を要請
- 12月24日、1人死亡(11月9日にボランティア)

仮設住宅入居者数(1月14日時点、人)

	入居戸数	入居世帯数	入居者数	高齢者数
小千谷市	846	666	2,291	593
川口町	412	352	1,240	342
魚沼市	26	67	248	73
管内計	1,284	1,085	3,779	1,008

中越大震災の特徴

- 中山間地の災害
- 死者と火事の少なさ
- 引き続く余震
- 車中死とエコノミー症候群
- コミュニティの力(自治会の働き)
- 濃密な人間関係
- 保健師の普段の地道な活動
- 全国からのたくさんの支援

課題

- 医療チームの受け入れ、撤退の判断
- 医療チームの活動の調整
- 小規模町村への支援
- 災害直後の物資調達
- 在宅福祉を支えるサービス機関への支援
- 慢性疾患患者の薬の供給ルールづくり
- 反省(大災害時には、直ぐ応援を要請する)
- 課題と反省を対策に反映させる
- 県の役割は?
- 次回(派遣時は、自動車、パソコン、食品持参、運転兼事務処理担当職員付き、統一した服装)

平成17年の目標

- 被災した生活弱者対策
- 施設の災害復旧支援
- 市町の被災者支援健康福祉活動支援
- こころのケア対策
- 感染症予防対策
- 栄養食生活支援
- 口腔ケア対策
- 被災営業施設に対する衛生指導等
- 仮設住宅における動物飼育支援



1月12日川口町内

